

## 雑感、C.ネオ・ロマンティカのクルーズ

個人会員 山田 廸生

この長い行列。何だと思えます？メインレストラン(Botticelli Restaurant)の夕食前の光景です。行列はレストラン入口から始まり、メインラウンジ(Piazza Italia)を通り抜け、隣のカジノにまで達していました(デッキプラン参照)。お年寄りも並んでいました。杖をついている人もいました。

申し遅れました。筆者は今年5月、コスタ・ネオ・ロマンティカの台湾・宮古島クルーズ(東京～8泊～横浜)に家内と乗りました。何年か前、地中海で乗ったコスタ客船の船旅が素晴らしかったのが、乗船の動機です。客室は海側プレミアム。メインレストランはセカンドシーティングでした。



### ●15分遅れるとメシにありつけない

どうしてこんな長い行列が現れたのか。原因は、船内新聞『Today』のメインレストランについての注意書きにあります(下掲。朱線は筆者)。ご覧のように「15分を過ぎますとご利用いただけません」とあります。

#### Botticelli Restaurant, 8階

※お食事(第一部or第二部)時間は、コスタカードの裏に記載がございます。厳守下さいませ。15分を過ぎますとご利用いただけませんのでご了承下さい。変更をご希望の方は、営業時間内にレストランの受付にてご相談下さい。変更は空き状況に応じ承れない場合がございます。

ネオ・ロマンティカのクルーズは大衆路線で売っています。「船旅ははじめて」という人が多いのです。初心者がこれを読めば、慌てます。「遅れたらたいへん！」ということで、この光景になったのだと思います。

ちなみに、ドイツ語版の船内新聞のこの部分を掲げます。

#### ***Botticelli Restaurant, Deck 8***

*Bitte zeigen Sie Ihre Costa Karte mit der Tischreservierung am Eingang des Restaurants vor*

*Sie werden gebeten, die auf die Rückseite Ihrer Costa Karte angegebene Tischzeit einzuhalten. Bitte wenden Sie sich für eventuelle Nachfragen während der Öffnungszeiten an den Restauranteingang. Anfragen werden je nach Verfügbarkeit berücksichtigt.*

ドイツ語通でしたらお気づきでしょう。「15分・・・」など、ひとことも書いてありません。何故、日本人船客にこんな条件をつけるのか。

それで、「おまえはどうしたのか？並んだのか？」。並びませんでした。

後期高齢者のわれわれは、足腰が弱り、並ぶのは無理。メインレストランがダメなら、ビュッフェレストラン (Giardino) があるし、有料の食エリアもあります。有料の食エリアがやたら多いのが、この船の特徴です。

#### **●かつてはオペラシアターがあった**

食エリアが多いのは、営業上の設計方針であり、仕方がないことです。だが、それも度が過ぎると、公室エリアの上質な雰囲気がこわれます。改装前のネオ・ロマンティカには、こんな華麗なオペラシアターがありました。

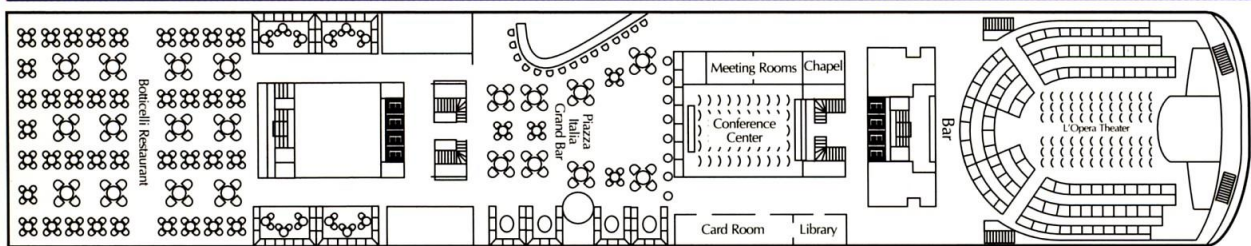
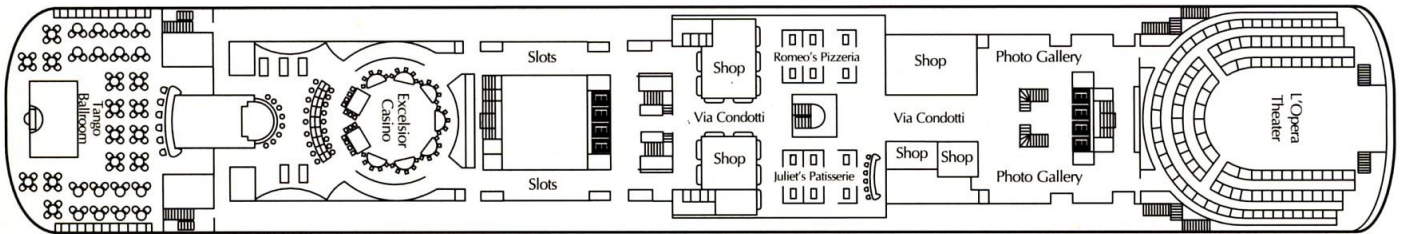


2デッキ吹き抜け構造で、公室デッキ（8・9デッキ）の最前部にありました。現在この位置には、スポーツジム、サウナ、スパ、ビューティーサロンなどスポーツ、美容施設があります。むろん、有料です。

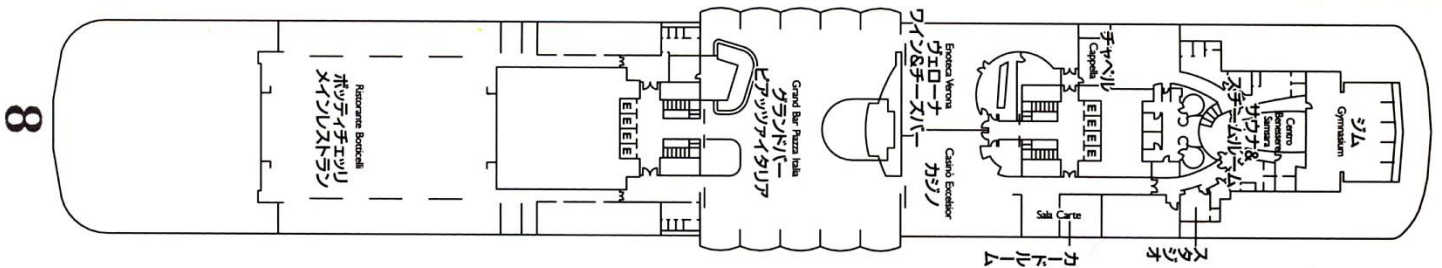
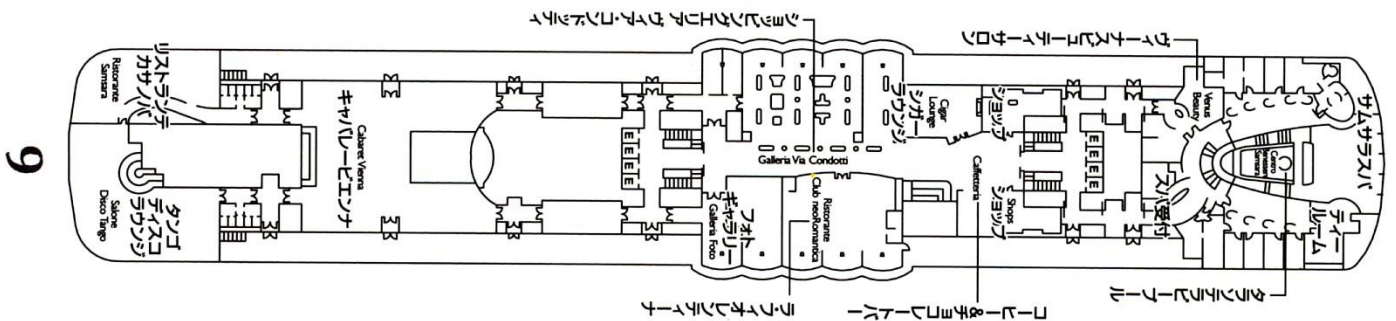


この船は1993年にヴェネツィアで建造され、2012年にジェノヴァで大規模な改装工事を受けています。これにより、公室が集中している8デッキと9デッキのレイアウトは、大幅に変更されました。

新旧の公室デッキ（8・9デッキ）のデッキプランを下に掲げます



改装前の公室デッキ（下が8デッキ、上が9デッキ）



現在（改装後）の公室デッキ

8・9デッキのおもな改装箇所は一

- (1) オペラシアターを撤去してスポーツ、美容施設にした。
- (2) 9デッキ後部のカジノの位置にキャバレーヴィエンナ (Cabaret Vienna) を設け、カジノは縮小して8デッキ右舷に移した。
- (3) 9デッキ全体を模様替えした。有料の食エリアとして、新たにステーキハウス (La Fiorentina 右舷中央部)、イタリアンレストラン (Casanova 左舷船尾部)、コーヒー&チョコレートバー (前部) を設けた。
- (4) 8デッキ左舷中央部にワイン&チーズバーを設けた (有料)。

一見して気がつくのは、船客たちが集う公室が少なくなったこと。広い公室は、メインラウンジのピアッツアイタリア (Piazza Italia) とキャバレーヴィエンナだけ。後者はカジノが前身なので、暗くて居心地がよくありません。結果、メインラウンジで過ごす船客が多くなります。ここはいつも混んでいました。夜のショータイム、説明会などでは立ち見が出ました。

上下船のときは仕方ないとして、たびたび立ったり並んだりするのは、高齢者にとってたいへんなこと。「この船はよく並ぶね」「こんなによく立つクルーズははじめて」という声をたびたび耳にしました。

今回のクルーズでは、東京大井から日本人船客 1,000 名以上と、イタリア人船客 100 名が乗船し、神戸から相当数の日本人がこれに加わりました。船内の混雑からみて、1室2名ベースの船客定員 (Double Occupancy Capacity) の 1,578 名に近い船客が乗っていたと思われます。

### ●レストランの衛生管理は大丈夫か

この写真をよく見てください。メインレストランでのスナップですが、なんと、椅子の背面の一角を、配膳台がわりにしています。

このレストランには、20~30席ごとの配膳台が見当たりません。やむなく、このようなことになります。ウェーターはたいへんですね。



注文した料理が来なかったり、頼まなかった料理が来たり、最初の1皿が出てくるのに30~40分もかかったり・・・。1度に2皿ずつ供され、皿が食卓から落ちそうになることも、たびたびありました。ウェーターの作業場である区画ごとの配膳台がないこと、これが原因と思われます。

食べ終わった料理を下げるときは、さらに問題です。客の目の前で、食べ残しを1皿にまとめる作業をやることになります。汚いですねえ。

筆者は臆病なので黙っていましたが、昼食時、ワイングラスが汚いので、ワインが注いであるにもかかわらず、交換させている勇敢な中年女性がいました。ダイヤモンド・プリンセスによく乗っている人のようでした。

ノロウイルスなどへの対策から、レストランの入口には、船客用の消毒液容器が置かれていました（ビュッフェレストランにも）。ただし、手の消毒をうながす担当者はいませんでした。他船のばあい、消毒を指示する担当者があるし、担当者が船客の手に消毒液を吹きかける船もあります。

とにかく、サービス人員が足りてないのでしょうか。ビュッフェレストランの食卓がベタベタと絶望的に汚いのも、人員不足が原因だと思います。

## ●朝7時に客室を空ける

筆者らの内外での乗船経験では、最終港に帰着したとき、次のクルーズへ向けての清掃のため客室を空けるのは、すべて朝8時でした。今回のクルーズでは、これがなんと朝7時。これも客室係の人数が足りないからか。

朝の1時間は貴重です。早起きして、顔を洗って、身支度をし、朝メシです。メインレストランの開業時間は6時30分~8時30分。ビュッフェレストランは6時~9時。7時退去から10時下船までの待ち時間を考えると、ビュッフェレストランで食べて過ごすのが賢明です。ですから、ビュッフェレストランは6時まえから、延々長蛇の列でした。

いろいろ書きましたが、どうやら、この船の問題点の原因の多くは、人員不足からきているようです。乗組員はいったい何人いるのでしょうか。

コスタ発表の資料によるとー

(改装前)

総トン数：53,049トン

客室数：675室

船客定員：1,350名 (Double Occupancy Capacity)

乗組員数：650名

(改装後)

総トン数：57,150トン

客室数：789室

船客定員：1,578名 (同)

乗組員数：622名

改装によって、客室は114室、船客は228名ふえているのに、乗組員は逆に28名減っているのです。これで問題の一端がわかりました。



ネオ・ロマンティカは大衆路線で売っている、と書きました。乗船料金の安さが売りのわけです。だが、ちょっと待って下さい。

今回、支払った海側プレミアム客室の料金は、1泊あたり1人15,400円(ポートタックス別)でした。ところが、昨年予約した今年10月のダイヤモンド・プリンセスの海側客室は、1泊あたり1人17,100円(同)。1,700円しか差がないのです。プリンセスのばあい、発売後に値下げしたときは、予約済みの料金も下げてくれます。これでかなり安くなったのです。

今回のクルーズでは、団塊・ポスト団塊のカップルにしばしば会いました。「長時間のフライトがつらくなった。それでクルーズ船の船旅を選んだ」という団塊世代の船客が多数いました。団塊世代の最高齢は72才になりますが、筆者が加齢で長時間のフライトができなくなったのは73才です。

この船では1室3～4人目の同伴子供の乗船料金が無料ですが、今回は、子供は少なかったです(夏休みには増えるのでしょうか)。

90才代の「超」がつく老カップルをはじめ、後期高齢者(われわれもそうだが)の姿もよく見かけました。「冥土の土産に(失礼!)豪華客船にでも乗ってきたら」と、息子さんか娘さんに勧められたのでしょうか。それらしき老人船客たちが、慣れない外国船の船内でまごついたり、行列に並んだりしている気の毒な姿を見るのは、正直、つらいことでした。

\*

\*

クルーズが終わりに近づくと、成人の船客全員にアンケート用紙が配られます。今回のクルーズ全般やサービス内容について、10点満点で評価するとともに、意見、感想などを書くわけです。これは他船でもやっています。

下船説明会のとき、日本人の女性クルーズディレクターは、「この船が今後何年も日本に定着することを願っています。そして、日本人乗組員を50人は乗せたい。アンケートには、9～10点の高得点で評価してください」という趣旨のあいさつをしました。その趣旨には筆者も異存はありません。



ピアッツァイタリア



ジョヴァンニ・ククッチオ(左)

そこで、この「雑感」稿を終えるにあたり、ネオ・ロマンティカのクルーズの長所をいくつか紹介したいと思います。

- (1) 各種のダンスの行事が多く、指導員も優秀で熱心でした。会場はピアッツァイタリアで、ポスト団塊を主体に参加者がたいへん多かった。
- (2) お酒の好きな人には耳寄りな話ですが、この船では、プレミアム客室（海側・内側）以上の客室の船客は、レストランやバーの 12.99 ドル以下のドリンクが飲み放題になります。ワイン（グラス）、カクテル、ビールなど、ほとんど、このネダンで収まります。オールインクルーシヴの超豪華客船と同じになるわけで、まさに「吞兵衛の天国」です。
- (3) 洋食に馴染みが薄い船客のため、メインレストランの入口に、その日の夕食の料理見本が展示されていました。毎日、夕食前に展示され、メモ用紙と鉛筆もありました。初心者には助かったと思います。
- (4) カンツォーネの国の船だけあって、再三うたってくれたジョヴァンニ・ククッチオ（Giovanni Cucuccio）というテノールが、美声で歌がうまかったことです。声量が足りないので、大歌劇場でうたうのはきびしいでしょうが、背が高く、おおぜいの年配女性が「追っかけ」化していました。この歌手の歌声はネットの「You Tube」で聴くことができます。とくに「カルーソ」（Caruso）が上手です。

さきごろ、ネオ・ロマンティカの来年夏までの日本発着クルーズスケジュールが発表されました。見たところ、手ごろな日程と乗船料金です。

若者からポスト団塊世代まで、広範囲の年齢層が乗船を志すことと思います。この「雑感」稿で指摘した問題点を極力修正し、明るく上質な新タイプのクルーズ文化を構築することを願っています。（文責は筆者）